

第1回 全国高等学校「書道パフォーマンス」グランプリ 審査規定

1. 審査方法

- (1) 各大会の審査は事務局が委嘱した書道審査員、パフォーマンス審査員合計3名程度が、決勝大会の審査は書道審査員、パフォーマンス審査員合計5名以上が、それぞれ下記「2. 審査対象」を「3. 採点方法」の基準に則って採点・評価を行う。
- (2) 審査方法は、各会場で各校の演技を採点する。
- (3) 審査員は公平を期すため事前に公開しない。
- (4) 採点方法・順位の決定方法は下記のとおりとする。

2. 審査対象

決勝大会の審査対象は各大会から選出された決勝大会出場校で、決勝大会開催会場で演技を行い、審査除外となった以外の学校全てが審査対象となる。

予選のない各大会については、11校以上応募があった大会に関しては、予備予選により選出された10校。それ以下の応募数の大会に関しては、応募校全校が各大会に出場することができ、各大会に出場した審査除外となった以外の学校全てが審査対象となる。なお、東北北海道大会、中四国大会は会場での演技を審査する予選があり、予選については別途規定する。

審査の対象となる演技とは、指定の揮毫エリア内で行われる演技開始時の最初の「お願いします」の発声の言い終わりから最後の「ありがとうございました」の発声の言い終わりまでで、その前後は審査対象とならない。

3. 採点方法

審査員各自の持ち点は40点。内訳は下記の通り

書道審査員 用筆の正確さ10点、完成した書の文字の美しさ10点、紙面構成10点、創造性10点

パフォーマンス審査員 揮毫する姿の美しさ10点、演出パフォーマンス度10点、情感10点、創造性10

点

基本的には、書道審査員のうち1名が審査員長を委嘱される。

同じ点数で複数校が並んだ場合、審査員長が順位を決定する。

4. 減点

以下の項目に該当した場合減点対象とし、審査後各審査員の点数より一律3点を減点する。

・演技時間が7分を超過した場合。演技時間とは、演技開始時の最初の「お願いします」の言い終わりから演技終了時の最後の「ありがとうございました」の言い終わりまでとする。

・審査員へ作品掲示をせずに終了の発声をした場合。審査員への作品掲示とは、審査員へ作品を垂直に立てた状態のことを言う。

5. 審査除外事項

以下の項目に該当した場合、該当した学校は審査の対象とならない。

- ・缶スプレーを使用した場合
- ・揮毫面への別用紙の貼り付けを行った場合(ただし落款を除く)

- ・演技開始以前に、揮毫面に細工・色付け・折り目などの加工、物品の配置等をした場合
- ・貼り付けを行わない型紙などは使用できるが、演技開始以前に揮毫用紙上に配置した場合

6. 点数などの開示

- ・全ての出場校へは、自校の合計得点、順位、審査員講評を後日開示する。
- ・出場校の校名と画像などは、HPなどにて公開する。
- ・各大会、決勝大会進出校の校名、点数はHPなどで公開する。
- ・決勝大会では、上位3校の校名、点数はHPなどで公開する。
- ・審査除外となった学校には、審査除外とした旨とその理由を開示する。
- ・減点された学校には、減点の理由と減点後の得点を開示する。